実際の『研究』を間近で感じたインターンシップ

大阪大学医学部保健学科検査技術科学専攻３年　浦川李花
（配属先：感覚神経回路形成研究チーム）

私がCDBのインターンシップに参加させていただいてまず驚いたのは、実験施設のすばらしさでした。最新の機械が十分な数あり、マウスや水生動物の管理も 専門的に行われていました。研究者の方々は研究にあわせて自由に利用することができ、そのバックアップがあるからこそ自分の研究に集中できるということを 知りました。

もうひとつ、CDBでは研究室間での情報交換が盛んに行われており、より進んだ研究を行うための重要なポイントのひとつであると感じました。最先端の研究 を組み合わせれば、臨床的に利用でき、多くの人を救うようなもの(例えば網膜補填など)を作り出すことができるということに感動しました。

私は漠然と将来研究をしたいと思っていたのですが、CDBのインターンシップに参加させていただいて、研究とはどういうものか実際の様子を見ることができ、より明確なイメージをもつことができました。将来の進路を考える上で大変良い経験をさせていただきました。

研究発表会に臨む鈴木絢診さん（左）、浦川李花さん（中央)、鈴木瑞人さん